

No.	課題分類	事業名	事業概要	課題内容	課題に対する担当課の提案 (解決方法)																																																
1	懸案事項	高齢者入浴施設等利用券配布事業	<p>市内の公衆浴場及び福祉センターなど9施設を利用できる、入浴施設等利用券を10枚(利用者負担1回100円)配布し、自立生活の助長及び心身機能の維持向上を図り、高齢者の要介護状態への進行を防止するもの。</p> <p>【事業変遷】                      H18～H20……利用券10枚、利用者負担なし                      H21～H26……利用券 8枚、利用者負担なし                      H27以降……利用券10枚、利用者負担100円</p>	<p>・平均寿命の延伸や令和5年度には”団塊の世代”(S22～S24生)が75歳を迎え、事業対象者の増加が見込まれる。</p> <p>・麦秋苑の風呂は老朽化によりR2.4より廃止。また、公共施設再編計画においても、今後、福祉センターの風呂機能を廃止することになっており入浴可能施設は減少する。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R2～見込)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>対象者</td> <td>6,501</td> <td>6,577</td> <td>6,735</td> <td>6,784</td> <td>7,152</td> <td>7,630</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8,267 (人)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>扶助費</td> <td>3,865</td> <td>4,005</td> <td>4,158</td> <td>4,686</td> <td>4,752</td> <td>5,082</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5,478 (千円)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	(R2～見込)								対象者	6,501	6,577	6,735	6,784	7,152	7,630		8,267 (人)								扶助費	3,865	4,005	4,158	4,686	4,752	5,082		5,478 (千円)								<p>・福祉センターの公共施設再編計画の方向性である「機能の一部(風呂)廃止」の進捗と、介護予防事業のニーズと併せ検討する。</p> <p>・高齢者の外出支援を促すため、事業の名称や配布枚数を変更し検討する。</p>
	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5																																														
(R2～見込)																																																					
対象者	6,501	6,577	6,735	6,784	7,152	7,630																																															
8,267 (人)																																																					
扶助費	3,865	4,005	4,158	4,686	4,752	5,082																																															
5,478 (千円)																																																					
2	懸案事項	道路維持管理事業におけるICTの利活用	<p>市道における安全を確保するためには、災害パトロールやゲリラ豪雨による浸水状況及び積雪状況の把握は不可欠である。</p> <p>適時適切にその状況を記録し管理を行うため、浸水深や積雪深のセンサーやライブカメラなどを設置し、定点での状況を把握することにより、その後の災害査定や除雪出動の判断材料等として情報の有効活用を行う。</p>	<p>災害査定時に、パトロールによる状況データの提出を求められ、定点観測などのデータが必要と指摘された。</p> <p>また、除雪に関して、除雪の判断基準となる積雪深をこれまでパトロールにより情報を得ていたが、現地を回っている間に、積雪深が大きく変化することがあり、マンパワーのみでは適時にその情報を把握し切れない。</p>	<p>太郎丸調整池の監視システムをクラウド型に更新したことから、そのシステムを利用し、浸水被害の発生が懸念される箇所や、積雪深観測箇所にセンサーを設置し活用できるよう増強の検討を行う。</p> <p>なお、今後の増強について補助事業を活用して取り組むことができないか並行して検討中である。</p> <p>適時に同時刻の情報を把握し、除雪出動などの判断情報とすることができ、情報を地域住民へも開示できる。</p>																																																